



高い志のもと、日々“キラリ”と光る活動をしている人たちがいる。  
“黄金の郷”“いわて平泉を支える、魅力溢れる”こしえるびと“のメッセージをシリーズで紹介していく。

## 次代の道しるべに

一関市滝沢

菅原 光則さん

### 就農を決意

やわらかな春の日差しが圃場に降り注ぐ4月中旬。ナスの定植を控え、忙しく圃場の準備を進める光則さん夫妻。妻の育子さんは家庭だけでなく仕事においても良きパートナーだ。

もともと両親が水稲とタバコを複合経営していたが、JAの相談会でナスの栽培を知り、興味が湧いた。ナスへの切り替えをきっかけに両親から栽培を引き継いだ。光則さんは当時、内装業との兼業。収穫時期は特に忙しさが増し、勤めていた会社を辞め就農することを決意した。





## とどまることのない 向上心

「就農してから子どもとの時間が増えた」と笑顔を見せる光則さん。就農当時は子どもたちが小さくて手が掛かり、少しでも効率よく作業を進められるようにと工夫しながらの栽培だった。JAなす生産部に所属し、指導会や研修に積極的に参加したり、収量を上げていく生産者の圃場へ

通ったりして技術の習得にも励んだ。特に、他の生産者の圃場から学ぶ事は多かった。全てをまねるのではなく、教わったことを自分の圃場条件に合わせて取り入れながら、少しずつ栽培技術を確立。なす生産部会は会員同士が互いに高め合える関係が築かれており、会員との交流は「栽培するからには、良いものを作りたい」という向上心を刺激してくれた。

## 新たな挑戦

ナス栽培を始めて今年で12年目を迎えた。露地栽培ではどうしても天候の影響を受けやすく、より安定的な出荷ができるように、光則さんはハウス栽培への変更を検討している。「JAなどの支

援策があることで作型の変更を前向きに検討できた」と徐々にハウス栽培へ切り替えていく計画を立てており、「品質の良いナスを安定的に生産し出荷できれば、所得向上にもつながる」と期待している。

なす生産部会は若手生産者の確保がこれからの課題。自分の頑張っている姿を見せることで、若い世代が抱えている就農への不安を少しでも拭えればと願っている。

—— 去年よりは今年。栽培方法を見直し、課題解決に努め、前へと進んでいく。



## PROFILE

菅原 光則さん (52)

Mitsunori Sugawara

一関市滝沢

1966年一関市滝沢生まれ。一関農業高校卒業後、市内の工場に就職。さまざまな職業を経験し、前職は内装業。2006年に就農し、現在、水稲とナス20畝を栽培。JAなす生産部会副部会長を務める。両親、妻、娘3人の7人暮らし。



私の一品

## ロケットストーブ

手作りしたロケットストーブ。調理ができるだけでなく暖房器具としても活用できる。子どもたちとご飯でご飯を炊いたことも良い思い出。